

現代中国語における再帰表現に関する一考察 「V + 身体部位 N」の形式を中心に

日下部 直美

0. はじめに

「再帰」とは、動作主が自分自身に対して行う行為を指す。仁田 1982 : 80 はこれを「動作主から出た働きかけが結局は動作主自身に戻ってくることによって、動作が完結するといった現象」と定義しており、本稿でもこの定義に従う。

本稿では、現代中国語における再帰表現である「V + 身体部位N」形式（Vは動詞、Nは名詞）の表現を取り上げ、¹当該形式において、動作主の身体の一部である身体部位に対する行為の他動性（transitivity）と“把”構文との関連について考察し、それぞれの行為における他動性の高低を明らかにする。さらに、その他動性の高低によって、“给”を用いた表現「N₁ + “给” + N₂ + V + 身体部位N」における身体部位Nの領属先が、以下の2通り存在することを示す。

動作主（N₁）のみの場合

シチュエーションによって動作主（N₁）或いは“给”で導かれる受益者（または受け手）（N₂）になる場合

身体部位 N が賓語の位置に来る「V + 身体部位 N」の表現としては、次のようなものが挙げられる。

- A. 眨眼（睛）[瞬きする] 点头 [頷く] 歪嘴（巴）[口をゆがめる]
招手 [手を振る、手招きする] 抱胳膊 [腕組みをする]
伸腿 [足を伸ばす]
- B. 梳头发 [髪をすく] 洗手 [手を洗う] 刷牙 [歯を磨く]
- C. 刮胡子 [髭を剃る] 剪指甲 [爪を切る] 拔牙 [歯を抜く]
切断手指 [指を切り落とす]

これらは全て、動作主が自分自身の身体部位に対して行う動作 所謂再帰的行為であり、賓語の位置にある身体部位Nは動作主の身体の一部である。²

本稿では現代中国語における再帰表現を扱うため、この視点と関連した他動性の特徴として、Hopper and Thompson1980 及びヤコブセン 1988 から以下の特徴を取り上げ、これらに基づいて他動性の高低を判断する。

() 動作主の意志 (VOLITIONALITY)

() 対象物は変化を被る

() 対象物の被影響度 (AFFECTEDNESS OF O)

(())() は Hopper and Thompson1980、() はヤコブセン 1988)

() の「動作主の意志」とは、「動作主が何らかの目的をもってその動作を行うかどうか」を表す。() の「対象物は変化を被る」とは、「対象物がどのような変化を伴い、どの程度の変化を被るか」を指すが、この「変化」については、2 章以下の分析で詳しく論じる。() の「対象物の被影響度」は、「対象物が行為の結果どの程度影響を受けたか(全面的に影響を受けたか、部分的に影響を受けたか、或いは全く受けていないか)」を表す。以上の特徴を有し、その程度が高いものは他動性が高いと判断し、また、その程度が低いものは他動性が低いと判断する。

1. 「SVN」と「S把NV」

張伯江 2000 は、現代中国語においては「SVN」(無標：基本語順)と「S把NV」(有標：“把”を用いてNが前置されている)の形式が存在していると述べており、前者の「SVN」のSは必ずしもコトガラ全体のエネルギーの起点(“動力源”)であるとは限らず、動作主性の低い成分を許容することができると指摘している。例えば、“老王烂了一筐苹果”[王さんはリンゴを一箱腐らせた]“萧长春死了媳妇”[蕭長春は嫁を亡くした](張伯江 2000 : 36)における“老王”、“萧长春”は、“一筐苹果”、“媳妇”に対して何らかの働きかけを行っているわけではないため、意志を伴っておらず、動作主性が低いといえる。

一方、「S把NV」は、構文全体の変位スキーマ(“位移图式”)³その中のSの推進力(“驱动力”)の成分を要求し、Sは常に強い意志成分であるため動作主性が高く、少なくとも“責任者”⁴であるとしている(張伯江 2000 : 36)。

また、張伯江 2000 : 29 は、“把”構文の特徴である「動詞の処置性」、「宾语」が定のもの（“有定性”）、「述語動詞の非単独性（“非光杆性”）」、「動作の肯定性」等は、相互関係を成していると指摘している。このことは、Hopper and Thompson 1980 : 274 も指摘しており、また、Hopper and Thompson 1980 : 275 は、“把”構文は、他動性の特徴である完了の小辞（a perfective particle）或いは行為の概念的境界を規定する句や節を要求するとも述べている。即ち、「S 把 NV」は構文そのものが他動性を有していると思なすことができる。以下では“把”構文を用いた A～C 類の「V + 身体部位 N」表現を取り上げ、その他動性について見ていく。

2. 身体部位の被影響度が無い場合

まず、A類の“眨眼（睛）”、“点头”、“歪嘴（巴）”の例を見てみる。⁵

（1）灰尘吹进了她的眼睛，她不由自主地把眼眨了眨。

[埃が目に入ったので、彼女は思わず瞬きした]

張伯江 2000 : 35 は“把”構文について「しばしば意志性（“自主性”）が備わっておらず、起因性（“使因性”）のみ備わった場合がある」と指摘している。

（1）の主語である“她”は身体部位に対して、「原因を与える存在」でもなく、“眨眼（睛）”という動作を意志的に行ったわけでもない。しかしながら、「埃が目に入った」という原因が前件に存在していることから、後件の“把眼眨了眨”はその原因によって行われた動作である。したがって、張伯江 2000 : 35 が指摘している起因性のみが備わった場合であるため、“不由自主”と“把”が共起するのだと考えられる。⁶よって、この場合は意志を伴っておらず、また、対象物である身体部位の変化、身体部位に対する被影響度は無いと考えられる。

次に“点头”、“歪嘴（巴）”の例を挙げる。

（2）老板是个光头带着大耳环的另类男人，看见梓绮，摇摇头又点点头，最后让梓绮换了条短裙子端上托盘来回走了几圈，终于把头点了下来。梓绮悄悄松了口气，……

(<http://lz.book.sohu.com/chapter-5046-1-6.html>)

[オーナーは禿頭に大きなイヤリングをした変わった人で、梓綺を見て首を振ったり頷いたりしていたが、最後に梓綺にミニスカートに替えさせ、トレーを持たせて何周かぐるぐると歩かせて、やっと頷いた。梓綺は静かにほっと息をつき、...]

(3) 有一天他叔叔走过来以后，曹操马上把嘴巴一歪，叔叔说：“你怎么了？”“中风了。”

(<http://club.business.sohu.com/r-gls100-249770-0-33-0.html>)

[ある日彼の叔父がやってきたとき、曹操はすぐに口をゆがめた。

叔父は「どうしたんだ？」と尋ね、(彼は)「中風になった」(と答えた)]

(2) は、仕事探しをしている“梓綺”がバーの従業員の面接を受けている場面である。点線部は「V + 賓語」の語順がとられており、その次の実線部では“把”を用いて賓語が前置されている。点線部のオーナーの動作は、面接中に“梓綺”を見ながら採用するかどうかを考えながらの動作であり、最終的な決定ではないが、実線部はオーナーが最終的に決断し、採用を認め、大きく頷いたと推測できる。即ち、実線部は“梓綺”に採用決定を知らせるための意志的な動作であるといえる。(3) の場合も、叔父を騙す目的で自分が中風になったかのように故意に口を歪めたということであるため、(2) と同様に意志的な動作である。また、(2) の場合は、頭を動かす動作であり、(3) の場合も、口を異様な形に歪ませたと推測できることから、いずれも身体部位にある程度の空間的位置の変化が生じていると思われる。したがって、(2) (3) の場合は、共に身体部位に対する被影響度は無いと考えられるが、(1) と比較すると、意志性が備わった動作であるため、他動性が高いと分析できる。

次は“招手”、“抱胳膊”、“伸腿”の例を見てみる。

(4) 一个手下提着灯笼火。因此，一齐过来拜见：“都督！大都督！”周瑜一声不响，对他们把手招招，自己跨入中舱。

(<http://www.ayoooyoo.com/Txt/ShowArticle.asp?ArticleID=317>)

[一人の手下が提灯を下げていた。このため、皆そろって「都督！大都督！」と謁見しに來た。周瑜は一言も言わず彼らに対して手を振って、真中の船室へと跨いで入っていった]

(5) 明显放松了刚才那样紧绷直立的神经，转过身正对镜头把胳膊抱在胸前，……

(<http://www.youyuw.com/html/08/75008-10956.html>)

[明らかにさっきの強張った神経を緩めて、身体の向きを変え、真っ直ぐにレンズに向かって胸のところで腕組みをし...]

(6) 男子一会儿把腿伸出护栏，一会儿又缩回去，最后把腿悬在空中。

(<http://51qe.cn/pic/55/26/1745.htm>)

[男性はガードレールに足を伸ばしたり引っ込めたりしていたが、最後に足を宙に浮かせた]

(4) は部下達に対して手を振り、(5) はレンズに向かって腕を組み、(6) は足を伸ばしたり引っ込めたり、宙に浮かせるという動作を表しているが、これらはいずれも意志的な動作である。また、(4) は手を上に挙げる動作であり、(5) は動詞“抱”の後に場所フレーズ、(6) も方向補語、場所フレーズを伴っていることから、三者とも身体部位の空間的位置の変化を伴うものだと考えられる。しかしながら、身体部位への影響は無いと思われるため、これら3つの他動性については(2)、(3)と同等であるといえる。

3. 身体部位の被影響度が部分的である場合

次に身体部位の影響度が部分的であるB類の表現について考察する。まず以下に例を挙げる。

(7) 她见欧阳英皱皱眉，马上意识到自己皮泡眼肿，蓬头散发，还要撒泼，一定面目可憎，赶紧抓起梳子把头发梳好。

(<http://book.sina.com.cn/nzt/lit/ygnrdss/28.shtml>)

[彼女は欧陽英が眉をしかめているのを見て、すぐに自分が目を腫らし、髪をぼうぼうに乱し、泣きわめきながら暴れて、きっと憎たらしい顔つきをしていたのだらうということに気づき、大急ぎで櫛をつかんで髪をきれいに整えた]

(8) 刚才我为猫儿调理食物，所以手有点脏。于是我去洗手间把手洗干净了。

[さっき猫ちゃんの餌を作っていて、手が汚れてしまった。そこで洗面所へ行って手をきれいに洗った]

(9) 我吃完饭，把牙刷干净，然后去约会了。

[私は食事を終わると、歯をきれいに磨いてから、デートに出かけた]

上に挙げた(7)～(9)は、全て動作主の意志的な働きかけによるものであるため意志的な動作であるといえるが、上述の(2)～(6)と異なっている点は、動作主の働きかけによって、身体部位が影響を受け、状態変化を伴っていることである。

李臨定 1993 : 273 は、“把”構文の表す「処置」について「述語部分が表して

いる動作行為が賓語の指す人または物に対して、ある種の影響を及ぼし、その人または物にある種の変化を起こさせたり、ある種の結果を生じさせたりすることを指す」と記述している。つまり、上の(7)～(9)の動詞は“好”、“干净”といった動作の結果を表す補語を伴っており、賓語である身体部位の状態が変化したことが分かる。

“把”構文の賓語の位置にある身体部位の空間的位置の変化と、身体部位の状態変化について、張伯江 2000 は、繆小放 1991 の老舍の作品における“把”を用いた表現の統計と、張伯江自身が行った王朔の作品の統計に基づいて考察を行っている。その結果、“把”で導かれる賓語の「変位性(“位移性”)」は“把”構文のプロトタイプの意味であることを明らかにしている。また、典型的な受け手成分は静態的であり、その受け手成分に働きかける動作主に「変位性」が備わっているが、“把”構文の賓語はそれ自体が常に「変位性」をもっていると述べている。さらに、「物質運動のプロセスは「位置の移動」のプロセスのみならず、一つの「状態変化」のプロセスでもある(張伯江 2000 : 34)」と指摘しており、“把”構文の賓語は、通常は「空間的位置の変化」という特性をもっているが、そこから拡張し、「状態の変化」という特性をもつ場合もある。この「状態変化」という特性は、動作主が身体部位に対して「整える」、「きれいにする」という目的で、「櫛」、「手」等の外的手段を用い、「櫛でとく」、「手を洗う」といった働きかけを行った上で、当該の身体部位の形状または表面の状態を変化させるということである。したがって、「状態変化」という特性は、「空間的位置の変化」より他動性が高いと判断できる。(7)～(9)においては、いずれも身体部位の状態変化を引き起こしている動作であるが、(7)の状態変化の範囲は身体部位の形状であり、(8)、(9)は表面のみである。また、当該の身体部位は動作主自身から分離せず、動作主の身体の一部として存在したままである。そのため、次の4章で扱う身体部位の分離を伴い、それに対する被影響度が全面的である場合と比較すると、(7)～(9)では、状態変化を伴っているのみであるため、賓語である身体部位に対する被影響度は部分的であると見なすことができる。

Hopper and Thompson 1980 : 266 は、他動性は高いものと低いものに二分できるものではなく(not dichotomous)、一つの連続体(continuum)であると述べており、他動性を構成している性質を表すパラメータも二元論的なものではなく、連続体であると考えられる。即ち、この場合の身体部位に対する被影響度につ

いても全面的またはゼロであるといったように二元的に見るのではなく、その両極端に位置していない中間的な場合であると分析できる。

4. 身体部位の被影響度が全面的である場合

3 章では、身体部位の被影響度が部分的である動作を考察したが、本章では C 類の身体部位の被影響度が全面的だと思われる場合について分析する。

- (10) 到第二天一早鲍春来起来准备比赛，我也起来了。一起来我就把胡子刮了。

(<http://www.nanfangdaily.com.cn/rwzk/20050629/gg/200507180099.asp>)

[二日目の朝、鮑春来は起きて試合の準備をし、私も起きた。起きると私はすぐに髭を剃った]

- (11) 我用了一个刀片，花了两个小时的时间，把指甲剪短，把图案刮干净，……

(<http://www.haikexue.com/tree/xixi/x16.htm>)

[私は刃物で二時間かけて爪を短く切り、デザインをきれいに擦り落とし...]

- (12) 他上回牙痛时，就是自己动手把牙拔掉了的。

[彼はこの前、歯が痛かったとき、自分で歯を抜いた]

- (13) 小泉参拜靖国神社后，20 名身披国旗的韩国青年聚集在汉城的“独立门公园”，大声抗议后用刀把自己的小指头剁下，装在信封里寄往日本驻韩国大使馆。

(<http://bulaoge.com/user.blg?uid=3465>)

[小泉氏が靖国神社を参拝した後、20 名の国旗をまとった韓国の青年達がソウルの「独立門公園」に集まり、大声で抗議してから刃物で自分の小指を切り落とし、封筒に入れて韓国の日本大使館に送りつけた]

(10) ~ (13) は、(7) ~ (9) と同様に意志的な動作であり、その身体部位の状態が変化したと考えられるが、動作主の身体の一部である身体部位を、動作主自身から分離させる動作であるという点において、形状・表面上の状態変化を伴う (7) ~ (9) とは異なっている。したがって、(10) ~ (13) の身体部位は、動作主自身から分離され、動作主の身体部分である状態から別個のモノへと変化しているため、身体部位に対する被影響度は全面的であると分析できる。これにより、(10) ~ (13) は、(7) ~ (9) と比較すると他動性が高いと

理解した]

(G5) 我给他招了招手，他立刻明白了我的意思。(“手”の領属先は N_1)

[私が彼に手を振ってやると、彼はすぐに私の意図を理解した]

上の(G1)～(G5)及び以下に挙げる(G6-1)～(G13-2)の身体部位Nは、全て領属先を明示していないノーマークのものである。(G1)～(G5)における動作主は、全て N_1 であり、身体部位Nの領属先も全て N_1 である。一方、(G6-1)～(G13-2)においては、動作主は全て N_1 であるが、身体部位Nの領属先が、シチュエーションによって N_1 である場合と N_2 である場合が考えられる。

(G6-1) 在桌子下他给我伸了伸腿，我接受到了他的暗示。(“腿”の領属先は N_1)

[机の下で彼は私に足を伸ばしてきたので、私は彼の意図を受け入れた]

(G6-2) (寝たきりの患者に対して)为了使他更舒服些，我给他伸了伸腿。(“腿”の領属先は N_2)⁸

[彼を楽にさせるために、私は彼の足を伸ばしてやった]

(G7-1) 他不喜欢我这个发型，没办法，我又给他重梳了梳头。(“头”の領属先は N_1)

[彼は私のこの髪型が気に入らなかったなので、仕方なく、私は彼のためにまた髪を梳いた]

(G7-2) 丈夫临出门前，我又给他梳了一次头。(“头”の領属先は N_2)

[主人が出かける前に、私は彼の髪をもう一度梳いてやった]

(G8-1) 他不喜欢我擦的护手霜的味道，我给他洗了洗手。(“手”の領属先は N_1)

[彼は私の塗っているハンドクリームの匂いが嫌いなので、私は彼のために手を洗った]

(G8-2) 孩子刚玩完沙子回来，我给他洗了洗手。(“手”の領属先は N_2)

[子供が砂場から遊んで帰ってきたばかりなので、私は手を洗ってやった]

(G9-1) 睡觉前，妈妈看我的牙说，“你没有刷干净”，没办法，我又起来给她刷了一次牙。(“牙”の領属先は N_1)

[寝る前に、ママが私の歯を見て「きれいに磨いていないよ」と言ったので、仕方なく私は起きてもう一度歯を磨いた]

(G9-2) 我给他刷了刷牙, 使他舒服一些。(“ 牙 ” の領属先は N_2)

[私は彼の歯を磨いて、彼をさっぱりさせてやった]

(G10-1) 我女朋友不喜欢有胡子的男孩儿, 我给她刮了刮胡子。(“ 胡子 ” の領属先は N_1)

[私の彼女は髭のある男が好きではないので、私は彼女のために髭を剃った]

(G10-2) 我给他刮了刮胡子, 使他看起来更年轻了。(“ 胡子 ” の領属先は N_2)

[私は彼の髭を剃ってやり、彼がもっと若々しく見えるようにしてやった]

(G11-1) 我给他剪了剪指甲, 因为他不喜欢我的指甲太长。(“ 指甲 ” の領属先は N_1)

[私は彼のために爪を切った。彼は私の爪が長いのが好きではないから]

(G11-2) 我给他剪了剪指甲, 又给他洗了洗头, 这使他看起来干净了许多。(“ 指甲 ” の領属先は N_2)

[私は彼の爪を切り、頭を洗ってやったので、彼は見た目が随分さっぱりした]

(G12-1) 我一直害怕拔牙, 但为了不使妈妈担心, 我给她把牙拔了。(“ 牙 ” の領属先は N_1)

[私はずっと歯を抜くのが怖かったけど、母を心配させないために歯を抜いた]

(G12-2) 我给他拔牙了, 因为他一直说牙疼。(“ 牙 ” の領属先は N_2)

[私は彼の歯を抜いてやった。彼がずっと歯が痛いと言っていたから]

(G13-1) 为了证明我自己的清白无辜, 我给他切断了小手指。(“ 小手指 ” の領属先は N_1)

[私は自分の無実を証明しようと、彼のために小指を切った]

(G13-2) 为了保全他的手臂, 无奈我给他切断了手指。(“ 手指 ” の領属先は N_2)

[彼の腕を守るために、仕方なく私は彼の指を切断した]

(G6-1) (G6-2) の “ 伸腿 ” の場合は、他者からの働きかけによって足を伸

ばすことができるシチュエーションを想定しやすいため、身体部位Nの領属先が2通りあると考えられる。このことから、他動性の高低から見ると、身体部位の空間的位置を伴う動作において、“伸腿”のような表現が、「 $N_1 + “給” + N_2 + V + 身体部位N$ 」における身体部位の領属先が N_1 または N_2 の2通り存在する境界であると思われる。

以上の考察から、他動性の比較的低い行為の場合は、身体部位の領属先が N_1 であり、他動性が比較的高い行為の場合は、身体部位の領属先が N_1 または N_2 であるというように、他動性の高低が身体部位の領属先と関連があることが分かった。これにより、他動性が高い動作の場合、その身体部位に対する働きかけが強いということになり、動作主のみならず、第三者の身体部位に対しても働きかけることができる。即ち、シチュエーションによって、再帰表現とは見なされない場合も存在する。したがって、他動性が高い動作の場合は、対象物となる身体部位の領属先が、動作主自身と他者である第三者の2通りのケースが考えられるのだといえる。

6. おわりに

本稿では、現代中国語における再帰表現として“把”構文と関連した「 $V + 身体部位N$ 」の形式を扱い、対象物である身体部位の変化を伴わないものから、身体部位の空間的位置の変化を伴うものについて分析を行った。さらに、身体部位が状態変化を伴う場合について分析し、その被影響度が部分的なものと全体的なものに分類して考察した。また、0章で挙げた（ ）₁（ ）₂（ ）₃の特徴を用い、これらを基準としてその他動性の高低を観察し、他動性が高い動作の場合、その身体部位に対する働きかけが強いため、「 $N_1 + “給” + N_2 + V + 身体部位N$ 」における身体部位の領属先が、動作主自身（ N_1 ）と他者である第三者（ N_2 ）の2通りが存在することを述べた。しかしながら、本稿で挙げたのはごく一部の事例であり、上述の一連の論証を確固たるものにするには、より多くの言語事実に基づいた分析が引き続き必要であると思われる。これは今後の課題としたい。

注

- 1 本稿では動作主の身体の一部である身体部位に対して行う動作について分析するため、「体」そのものを表す“身(子)”、“身体”等が賓語の位置に来る表現は考察の対象外とする。
- 2 “拔牙”、“切断手指”は、“我拔了牙”、“我切断了手指”のように、“牙”、“手指”がノーマークの場合、この身体部位は動作主のものであると解釈される。一方、第三者の身体部位に及ぶ際は、“我拔了他的牙”、“我切断了他的手指”といったように、身体部位の領属先を何らかの形でマークするか、或いは“我给他拔了牙”、“我给他切断了手指”のように“给”で第三者を導く等の有標形式を用いなければならない。または、その身体部位が第三者のものであると解釈できる文脈が必要である。よって本稿では、身体部位がノーマークである“拔牙”、“切断手指”を再帰表現と見なす。
- 3 変位スキーマ(“位移图式”)とは、张伯江 2000 によると、“把”構文における空間上の物体の転移を表す方向補語、また、それからメタファー的拡張をした時間的意味や結果補語・状態補語のプロセスを指す。
- 4 张伯江 2000 によると、S は自分が故意に行う意志的な行為に対しては、当然責任を負わなければならないが、非意志的な状態で生じたコトガラの原因に対する責任からも逃れられず、この場合の S も“責任者”であるという。即ち、生じたコトガラに対して S が非意志的な状態であっても、話し手が“把”構文を用いれば、話し手の S に対する“追求責任”の意味が生じ、このときの S は“責任者”となる。
- 5 本稿で挙げる(1)~(13)及び(G1)~(G13-2)の例文については、インターネットから検索したものには URL を示してあり、無いものは作例である。いずれもインフォーマントチェックを受けている。
- 6 次の例のように、前件に原因が無い場合は、“不由自主”と“把”を共起させると不自然になる。

一般正常人在读任何东西的时候都会断断续续地眨眼。换言之，在阅读这段文字的时候你已经不由自主地多眨了几次眼。(? 不由自主地把眼多眨了几次)

(<http://www.cctv.com/program/wnfw/20050706/100766.shtml>)

[普通、正常な人は、どんなものを読むときにも断続的に瞬きする。言い換えると、この文字を読むときにあなたは既に無意識に何回か余計に瞬きをしている]

- 7 (13)の身体部位 N は“自己”で領属先をマークされているが、このことについて、以下に例を挙げて説明する。

a) *张三_i刷了他_i的牙。

b) *张三_i刷了自己_i的牙。

c) 张三_i刷了_i牙。

(董秀芳 2003 : 30)

董秀芳 2003 : 31 によると、“刷牙”のようなコトガラは、他人の歯ではなく、自

分の歯を磨くという我々の生活上での常識に基づいており、したがって、主語と賓語における領属関係は動詞と賓語の意味によって決定するため、この場合は、賓語に主語と一致した領属先をマークする必要は無いと指摘している。しかし、(13)の場合は、後の5章で考察するように、文脈次第で動作主自身の指である場合と、第三者の指である場合が存在する。このことから、動作主自らの身体部位であることを際立たせるために、“自己”で領属先をマークしているのだと推測できる。

- 8 相原 1985 : 29 は、「伸」という語は『シテ自身の肢体の一部をノバス』(傍点も原文のまま)と述べている。しかしながら、(G6-2)のシテは“我”であるが、“腿”は“我”のものではなく、“他”のものである。

主要参考文献

- 相原茂 1985 「“亲嘴”の“嘴”は誰のもの？」『明治大学教養論集』176号
 木村英樹 2000 「“给”が使えない「ために」」『中国語』内山書店 10月号
 仁田義雄 1982 「再帰動詞，再帰用法 Lexico-Syntax の姿勢から」『日本語教育』47号 日本語教育学会
 仁田義雄 1988 「拡大語彙論的統語論」久野暲・柴谷方良(編)『日本語学の新展開』くろしお出版
 ヤコブセン、ウェスリー・M 1988 「他動性とプロトタイプ論」久野暲・柴谷方良(編)『日本語学の新展開』くろしお出版
 李臨定 1993 『中国語文法概論』宮田一郎訳 光生館
 董秀芳 2003 定语位置上的指代词、反身代词和零形式 《语法研究和探索》十二 商务印书馆
 吕叔湘 1965 被字句、把字句动词带宾语 《吕叔湘文集》第二卷 商务印书馆(1990)
 繆小放 1991 老舍作品中的“把 NVP” 张志公主编《语文论集》四 外语教学与研究出版社
 王惠 1997 从及物性系统看现代汉语的句式 《语言学论丛》十九 商务印书馆
 袁毓林 1994 一价名词的认知研究 《中国语文》第4期
 张伯江 2000 论“把”字句的句式语义 《语言研究》第1期
 周晓康 2000 人体名称的实体地位及其在及物性系统中的语义功能 《面临新世纪挑战的现代汉语语法研究》山东教育出版社
 Hopper, Paul J. and Sandra A. Thompson 1980 Transitivity in Grammar and Discourse, *Language* 56 : 251-299
 Thompson, Sandra A. 1973 Transitivity and some problems with the ba construction in Mandarin Chinese, *Journal of Chinese Linguistics* 1 : 208-221